

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	経営企画課	
施策	26	都市基盤施設の維持・強化	評価 責任者	小笠原 美千代	内線 697-6230
小施策	26-7	雨水浸水対策の推進	評価 シート 作成者	齋藤 剛	内線 697-6231

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
近年の局地的集中豪雨による浸水防除のためにも、幹線水路の整備や面的整備を進める必要がある。また、既存施設の耐震化を進めるとともに、老朽施設の大規模な改築・更新を行う必要がある。	浸水状況の把握を行い、緊急性のある雨水幹線整備を重点的に実施することにより、浸水被害を解消し、市民の生命・財産の保護及び都市機能の確保を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
雨水排水施設	浸水被害を解消し、安全な水環境を確保している。
市民	市民の生命・財産が保護される。
都市	都市機能が確保される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標①	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題の要因分析
下水道雨水施設整備率(整備面積/雨水認可面積)	%	↗			
当初値 (H25)	60.2	R1目標値	61.4	R6目標値	62.8
			・下水道雨水施設整備率が増加した。	・未整備地区における雨水管整備が行われたことによる。	
			・整備対象範囲が広く、整備率の伸び幅が少ない。	・未整備地区は郊外が多く、整備に伴う管路延長が大きい。	

今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 未整備地区の幹線整備と面整備を図る。 ★ 過去に浸水被害を受けた箇所の災害防止を図る。 	